

【夢生民放課後等ディサービス利用 ご家族のみなさんへ】

事業所評価のアンケートにご協力を頂き、ありがとうございました。
みなさんから頂いたご意見を真摯に受け止め改善に努めていきたいと思ひます。
今後とも、よろしくお願ひいたします。

つながり職員一同

ご家族からの放課後等ディサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和5年2月10日

事業所名 夢生民 保護者等数(児童数) 回収数 20 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18			2	アスレチックが良い	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16	2	1	1	迎え時職員が不在の時がある。子どもだけで外に出ている時がある。	必ず職員が子どもの側で見守り、支援するようにしています。やむを得ない場合は、他事業の職員が子どもたちを見守るようにしていきます。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	20					
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等ディサービス計画*1が作成されているか	18	1		1		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	17	3			色々な行事があり楽しみにしている	マンネリ化しないようにこれからも創意工夫をしていきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	11	1	1	7	コロナ禍で難しいと思うが交流をしてほしい	土曜日、長期休暇を利用し地域の方々、子どもたちと交流していきます。皆さんが参加できる行事を企画していきます。
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15	4		1	色々聞くことができ安心である。コロナ感染の際の在宅支援はありがたかった。	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16	2	2		活動の様子を教えてほしい	送迎時に子どもたちの様子をお伝えするようにしていきます。また、支援計画の見直し、面談時にも行っていきます。ご家族の方からも遠慮なく職員にお尋ねください。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	3	1			
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	5	4	4	コロナ禍で仕方ないと思うが集まって意見交換がしたい。	感染予防に配慮、工夫しながらできることから開催していきます。小グループでの話し合いなど。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	1		3	苦情を言っているが改善されていないこともある。職員も辞め、報・連・相がなっていないのではないか。	苦情、相談には真摯に受け止め対応していくことを全ての職員が自覚し努めていきます。

	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	2	1		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	19	1			
	14	個人情報に十分注意しているか	18	2			
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	14	2	1	3	
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	3			今は何があってもおかしくないので定期的に訓練をしてほしい。 様々な災害を想定し定期的に訓練を実施していきます。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	19	1			
	18	事業所の支援に満足しているか	18	2			支援はありがたいが、以前より相談がしにくくなった。 研修などを通して職員のスキルアップを図っていきます。また、接遇についても研鑽していきます。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月10日

事業所名 夢生民

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			アスレチック、絵本コーナー、個室を準備し、それぞれの場所で過ごすことができている。	今年度においては、感染症対策の為、少人数ごとに分けて活動する等工夫してきました。	
	2 職員の配置数は適切である	6			基準通りに配置している。	夏休み等長期休暇の際には、アルバイトをお願いし配置職員と共に充実した活動ができるようにしています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			スロープ、バリアフリートイレあり。一部、階段があるが職員が見守り安全に配慮している。		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			ミーティングやSNS等を活用し日々の振り返りを行い、取り組んでいる。	個別支援会議を積み重ね、職員ひとり一人が主体的に支援に携わることができるようにしていきます。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		ご家族に事業所評価を依頼し、そのご意見をもとに業務改善に向けて努力している。		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			自己評価結果をご家族に配布すると同時にホームページ等で掲載予定である。		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			5	1	第三者委員会による外部評価は受けていないが、ご家族やサポーターの会の意見をお聞きし、職員会議、理事会等で検討、業務改善に努めている。	
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				採用時に法人の理念・歴史等の研修を行っている。各種研修にも積極的に参加し伝達研修を行っている。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもとご家族のニーズをお聞きし、月1回職員全員での個別会議で話し合い計画を立案している。	会議の内容をさらに充実させ、支援の質的向上に向け、全職員が研鑽をつんでいきます。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			標準化されたアセスメントツールを使用している。また、事業所独自で項目を付け加え工夫している。		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		1	1	デイのスタッフで意見交換しながら毎月のプログラムを決めている。	季節感、行事、子どもの興味、刺激、感覚遊び等を考慮し、子どもたちが生き生き活動できるプログラムを計画していきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		1	1	季節感や子どもたちの興味関心を大事にしている。	遊び・運動・レクリエーションといった研修にも参加し楽しい活動ができるように工夫していきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		1	1	1日の活動プログラムを設定し、子どもカレンダーとしてお知らせしている。	プログラムの中で、子どもたち一人ひとりの様子を確認し、生き生きと活動できるようにしていきます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				集団活動と個別の活動を大事にしている。時には、男女分かれて活動したり、一人ひとりがやりたいことを行う日を設けている。	毎月の活動プログラムを立案する際に、子どもたちの意見も聞きながら、個別、集団の活動を行っていきます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				ミーティングやSNSを活用し確認している。	職員ひとり一人の支援のレベルアップを図っていきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		1	1	ミーティングやSNSを活用し確認している。	職員一人ひとりが意識し、支援の振り返りをもっと細やかに行ってい、次の活動や支援に役立ていきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		1	1	毎日の活動の様子を担当者が記録しています。	支援の検証・改善につなげていくことに関しては不十分である。職員一人ひとりが意識し、支援の振り返りをもっと細やかに行ってい、支援のあり方を考えていきます。
18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				半年に1回に見直しを行っている。また、子どもの様子、状況に応じてその都度の見直しを行っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5		1	1	行っている。	さらにすべての職員がガイドラインを理解し支援の質の向上を図っていきます。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	児童発達支援管理責任者、担当者が出席している。	職員の質的レベルアップができるように、担当者会議には児発管だけではなく担当者もより積極的に参加していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	担当者を決め、専用携帯で連絡調整をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6	医療的ケア児の受け入れは行っていない。相談があった場合は相談員、関係機関につないでいる。	医療的ケア児の受け入れは未定。医療の専門的知識、技術を有するスタッフの配置と職員の研修が不可欠と考えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6		必要があれば、相談員を通じて情報を得ている。	事業所独自では個人情報等でなかなか情報を得ることが難しい状況であるが、ご家族から幼児期の発達の様子をお聞きし支援に役立てています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		卒業後の進路については、事前に丁寧に関係機関と情報の共有をしている。また、卒業後の様子も確認し必要があれば助言している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	子どもを中心に家族支援と考えており、支援センターの方に来て頂き助言を得ている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	1	地域の公園、児童館に行き自然な形で交流をしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6	参加していない。	以前は参加していたが会議時間が支援の時間帯と重なり参加が難しい状態である。情報については、時折、相談員や関係機関から得て役立てています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	日々において活動の様子を伝えたり、個別支援計画の見直し時や年度はじめに面談を設け話し合っている。	今回のアンケートで「いいえ」という意見が1名ありました。伝えることを意識し、共通の思いで支援にあたります。職員一人ひとりが意識していきます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		6	特に保護者へのプログラム支援は行っていない。	必要があれば児童相談所、発達障害者支援センター等関係機関へ繋ぎ、指導・助言を頂きながらともに学んでいくことを大切にしています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	利用契約時に説明をしている。変更があった場合はその都度説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	ご家族からの相談には必ずお答えしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	家族会という形での組織化はしていない。ご家族の希望に応じて少人数での茶話会を開いている。	今回のアンケートで希望するご家族が多くありましたので次年度に家族会の開催を考えていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		適切に対応している。必要があれば相談員にも相談し一緒に相談できる体制をとっている。	苦情やご意見があった際には、迅速かつ適切な対応を心がけていきます。ご家族のお話をよく聞き、解決できるようにしていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		子どもたちの様子、活動を含めた法人の通信を年6回発行している。また、SNSを活用し活動の様子を伝えてい	
	35	個人情報に十分注意している	6		利用契約時に説明と同意を書面で交わしている。必要があれば、その都度了承を得ている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		子どもたちの特性に応じた方法でコミュニケーションをとっている。(50音表や視覚化)ご家族とはSNSを活用しての情報伝達が多くなってきて	これまで以上の対応ができるように、さらに検討していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	6		カフェを運営していることもあり、日頃から地域の方々との交流はある。	コロナ禍での難しさを感じているが、工夫し、これまで通り地域交流を図っていきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	BCP計画作成、緊急時マニュアル、感染症対策は整備しているが、保護者に周知するまでは至っていない。	職員間の勉強会を重ね、ご家族に周知できるようにしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2	子どもたちの活動の中で行っている。	昨今の自然災害等を想定し、定期的に訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		毎年、虐待に関する研修に参加し全職員に伝達研修を行っている。	人権についての研修、支援の質向上のための研修を行い、虐待防止の意識を深めています。虐待防止委員会の役割を果たしていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	やむを得ず身体拘束をする場合は、その状況等が説明できるように記録をとっていきます。	契約時の説明や個別支援計画書に明記し同意を頂くようにしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		ご家族からの申し出により、おやつ、食事等配慮している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	ミーティングや職員会議等で状況把握をしている。事故につながるないように情報共有している。	職員の報告書をもとに振り返りを行っている。事故に繋がらないように一人ひとりの職員がヒヤリハットを自覚していきます。また、必要があれば環境整備も行っていきます。